

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です! /

糸島の
農業を
元気に

若手ファーマーズの

古重カ NO.89



稲刈り作業です。
忙しい時は、ほぼ丸1日
コンバインに乗りっぱなしになるそうです。



糸島市浦志
ともいけ まさひろ
友池 将大さん (23)



肥料散布用のアタッチメントを付けたトラクターです。
農業機械は、トラクター4台、コンバイン1台、田植機1台、乗用管理機1台の他リフトや畝立て機、野菜の定植機など多数保有されています。

浦志の友池将大さんを紹介します。

今回は、就農して4年目を迎えられる

◆農業経営の内容を教えてください

普通期の主食用米、酒米、飼料用米を8畝、麦を大麦、小麦合せて12畝、ブロッコリーを2畝で生産しており、管理作業は父と私で行っています。

◆就農のきっかけは？

高校生の頃に農業を継ぐ決心をして、高校卒業後に農業大学校で2年間米・麦について学びました。

カリキュラムでは、二丈の農家で1ヶ月間、より実践的な研修を受けました。

◆就農して大変だったことは？

子どもの頃は農作業というとクワやカマを思い浮かべていましたが、実際には機械

を使った作業が多いため、操作を覚えるのが大変でした。

大学で使っていた機械とは大きさもまるで違いますから。

◆心掛けていることは？

やるべきことはその時に確実にやる。後回しにしない事を心掛けています。

害虫や雑草は待ってくれません。遅れるほど被害が大きくなりますので。

◆将来の抱負は？

今は父が中心で経営していますが、私自身さらに技術を向上させて、将来は今まで以上に高品質・高収量を実現し、規模ももっと拡大したいと考えています。

糸島青年団体連合会が献血活動 9月30日(水)

JA糸島青年部(三坂哲弥部長)など糸島市内の4青年組織で構成する糸島青年団体連合会が、献血活動を実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、テント内に待機するのは3人までとし、受付は1人ずつ行いました。

今回は、青年団体連合会全体で271人、その内JA青年部は49人が献血を行いました。

JA糸島青年部の三坂哲弥部長は「コロナ禍などもあり、何か出来ることは無いかと考えていました。困っている人達のために少しでも協力したいと思っています」と話しました。



受付を行う三坂哲弥部長